科目名	専門演習Ⅱ　　Seminar II						
科目担当者	雨宮 敬博　　AMAMIYA Takahiro						
単位数	4	配当年次	3年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科［区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科［専門教育科目　演習］ 他学部他学科履修×					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	本科目は「演習」ないし「ゼミ」であるので、「資格を取得するため」とか「手に職をつけるため」などといった知識・技術詰め込み型の学習ではなく、現在何が問題なのか、どのように行動すればよいのかを自ら考え、自ら実践することが重要となる。 具体的に取り組むテーマ・内容は、ゼミ生と協議しながら決定するので、「授業計画・内容」の欄に記されている予定は変更の可能性がある						
授業の到達目標	①専門演習Ⅰに引き続いて刑事法に関する研究をさらに深め、自分自身で問題を発見するとともに、何ゆえにそれが問題なのかも含めて徹底して考える習慣と能力を身につける。						

授業計画・内容

1	年間計画策定、ゼミ長・幹事選出	16	後期のゼミ活動について
2	基本書講読（社会的法益に対する罪）	17	矯正施設見学事前研究
3	基本書講読（社会的法益に対する罪）	18	矯正施設見学事前研究
4	基本書講読（社会的法益に対する罪）	19	矯正施設見学
5	基本書講読（社会的法益に対する罪）	20	矯正施設が抱えている諸問題についての検討
6	基本書講読（国家的法益に対する罪）	21	学外講師講演事前研究
7	基本書講読（国家的法益に対する罪）	22	学外講師講演
8	基本書講読（国家的法益に対する罪）	23	卒業論文の取り組み方
9	研究報告の準備	24	卒業論文構想発表の準備
10	研究報告（1～2名）	25	卒業論文構想発表（1～2名）
11	研究報告（1～2名）	26	卒業論文構想発表（1～2名）
12	研究報告（1～2名）	27	卒業論文構想発表（1～2名）
13	研究報告（1～2名）	28	卒業論文構想発表（1～2名）
14	研究報告（1～2名）	29	卒業論文構想発表（1～2名）
15	研究報告（1～2名）	30	卒業論文構想発表（1～2名）

授業外学修（事前学修）

昨年度に経験した通り、研究報告の場合は相当の事前準備（研究）を要する。その他の場合ももちろん事前準備が欠かせない。例えば、ディベートの場合はチームごとに立論の方針や予想される相手チームの立論に対する反論のすり合わせなどが事前に必要となる。また、学外講師講演事前研究の場合は、当該講演のテーマに即して文献等を用いて必要事項を事前に調べておく必要がある。水曜4限のゼミの時間自体は90分間であるが、この90分間をより充実したものとするためにも事前学修が必須であることは言うまでもない（毎週2時間程度）。

授業外学修（事後学修）

毎回のゼミの際に指示する（毎週2時間程度）。

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応

成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
出席の状況、研究報告の内容、討論への参加の度合いによって評価する。 前期試験・後期試験として口頭試問を実施することもありうる。その場合はこれも勘案して評価・単位認定する。	100%	①

成績評価基準

秀：（評点90点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合
優：（評点80点～89点）到達目標を高い水準で達成している場合
良：（評点70点～79点）到達目標を一定の水準で達成している場合
可：（評点60点～69点）到達目標を最低限の水準で達成している場合
不可：（評点60点未満）到達目標に達していない場合
無断欠席や正当な理由のない欠席が一定回数以上ある場合は「不可」となる。
研究報告の際に、インターネットからいわゆるコピペを行った場合も、他の取組状況等のいかんにかかわらず、「不可」となる。

教科書	初回のゼミの際にゼミ生と相談したうえで決定
参考文献	適宜紹介
その他	